

韓国農林食品輸出入組合

Korea Agriculture Food Trade Association

Room. 1106, Korea aTCenter
232 Yangjae-Dong, Seocho-Ku,
SEOUL, 137-787, KOREA

TEL : 82-2-6300-8200/4
FAX : 82-2-6300-8205
DATE : September. 25. 2008

TO : 日本 加工栗 輸入業者協議会 会長 梶川正智
FROM : 韓国 農林食品 輸出入組合 林産分課委員長 具滋連

題 目 : 韓国の栗の安全性調査 及び 検査 結果書の通報

1. 貴 協議会の無限な発展を祈願致します。
2. うちの組合は '08年度 韓国産栗に対して韓国の主要14個輸出団地の栽培履歴を調査した結果、日本で使用が禁止された農薬は使わないのを確認し、その結果を別紙の通りお知らせ致します。(原本は郵便で送付)
3. 「栗」 残留農薬のポジティブリスト制関連の栗市場からの要請事項である、栗の写真 [①産地 (3箇所以上),②開花状態,③栗園 (畑) の立地.周辺の状態 及び 周辺作物など、④農薬散布状況 : 病虫害駆除の空中散布状況、自助散布状況、⑤収穫状況] は e-mail(mkt.kobe61@wing.ocn.ne.jp)でお送り致します。

別紙 : 栗の栽培履歴書

以上。

韓国産栗の栽培履歴書

2008年度 韓国産栗の栽培履歴書を別紙の通り提出します。

下 記

1. 対象品目：対 日本への輸出用 剥き栗及び渋皮栗
2. 調査地域：主要の輸出団地 14箇所地域
 - 忠南：公州、夫餘
 - 全南：光陽、求禮、昇州、順天
 - 慶南：河東、晉州、山清、固城、咸陽、砂川、居昌、陝川
3. 調査期間：'08年 7月 1日 ~ 8月 31日
4. 調査要領：各の産地別に 5~10農家の標準農家を選定して調査
5. 栽培履歴：別紙
6. 調査機関：韓国農林食品 輸出入組合 及び 栗の輸出業体

2008年 9月 25日

韓国農林食品輸出入組合

理事長 曹芳煥

ソウル市 瑞草區 良才洞 232番地 農業貿易センター 1106号

TEL：82-(0)2-6300-8200/4 FAX：6300-8205



韓国の栗の栽培履歴書

1. 栽培環境

栗木は主に野山と山裾に栽培しているから、周辺に汚染物はない。

2. 間伐、整枝・剪定

- 12月～翌年 2月の間に実施する。

3. 除草作業

(1) 草刈り：除草機を利用して草刈りを行い、年2回～3回 実施する。

－ 主に6月中旬、7月末、8月中旬頃に実施している。

(2) 除草剤 散布

実行時期	回数	成分名	防除法	備考
7月末	1回	Gulfosinate	水 20ℓ 当り 60ml	噴霧器を利用して散布
		Glyphosate	水 20ℓ 当り 14ml	

(3) 被服栽培：一般的には大衆化されていないが、一部の農家では 藁、あらぬか、草、P.Pなどを使い、除草作業に当たっている。

4. 肥料施し(施肥)

(1) 施肥時期：年 2～3回 実施する。

- 元肥(春肥)：2月 中旬～3月 下旬頃(土壌の解氷時期)に実施。
- 夏肥(実肥)：7月 上旬(10日頃)に実施。
- 秋肥(礼肥)：栗の収穫後、11月頃に実施。

(2) 肥料の種類

- 科学肥料と有機質肥料を並行使用している。

(3) 施肥料

樹齡	春肥					実肥		礼肥
	堆肥	尿素	溶過燐	塩化カリ	硼素	尿素	塩化カリ	尿素
	kg	g	g	g	g	g	g	g
2~3	4	280	640	200	-	-	-	-
4	4	550	690	330	15	-	-	-
5~6	6	430	690	220	20	290	220	150
7~9	6	580	1,330	330	25	380	330	200
10~14	10	870	2,020	450	50	570	450	300
15~19	10	1,160	3,350	670	50	770	670	390
20~25	10	1,450	4,040	890	100	960	890	490

- 土壤条件と木の育ち形を見ながら肥料量を調節している。
- 有機質肥料：10a当り → 豚糞 0.5トン、牛糞 2.1トン、鶏糞 0.3トンなどを混合発酵して使用。

5. 主要 栗木の病害の防除

(1) 栗木の胴枯病

- 初期に病斑が発生した時、病にかかった部分をえぐって傷にマシン油乳剤をつける。
- 凍害や皮焼を防ぐために幹に白色ペイントを塗り付ける。

(2) 疫病

- 間伐、整枝、剪定などの作業を徹底的に行い、病発生のおそれのある地域の被害木は伐採して焼却する。

(3) 果実炭疽病

- 適切な施肥管理を行い、樹勢を健全に維持する。

6. 主要 栗の病害の防除

㊦. 栗木の病虫害防除の現況

防除方法	航空防除	航空+自力防除	自力防除	親環境	無防除
占有率(%)	37	23	17	12	11
回数	年1回	航空+1-2回	2-4回	(農薬使わない)	(非商品化)

ㄥ. 航空防除

- 航空防除は年1回実施し、主にモモノメイガ、栗コクゾウムシを防除の対象に実施する。
- 防除時期：輸出用栗である中生種は7月～8月に地域別に実施して、品種と農薬安全性を勘案して山林庁のヘリコプターを使用し、実施する。（内需用に使用される晩生種の生産地域の場合は9月初めまで防除する場合もある。

ㄨ. 自力防除

- 各農家別に噴霧器を利用自力防除に当たる。

ㄩ. 使用農薬

- 航空防除、自力防除時主に使用する農薬は次の通り

成分名	適用虫害	使用時期	使用量 (水20ℓ当り)	安全使用基準	
				時期	回数
Cyhalothrin	モモノメイガ	散乱最盛期から 10日間隔	20ml	収穫10日前	5回以内
Trichlorfon	モモノメイガ	7～8月	20ml	収穫15日前	4回以内
Chlorfluazuron	モモノメイガ	発生初期 10日間隔	10ml	収穫7日前	7回以内
Dichlorvos	モモノメイガ	6月上旬から	20ml	収穫3日前	4回以内
Chlorpyrifos	アブラムシ	発生初期	20g	収穫21日前	3回以内
Fenvalerate	アブラムシ	発生初期	20ml	収穫7日前	5回以内
Tralomethrin	アブラムシ	発生初期	20ml	収穫7日前	5回以内
Fenitrothion	カイガラムシ	幼虫 発生初期	25g	収穫30日前	4回以内
Cypermethrin	栗玉蜂	発生初期	20ml	収穫15日前	3回以内

7. 農薬のドリフト

栗木は主に野山と山裾に栽培してから、その他の農作物は平地で栽培してあって、栗栽培地とは一般的に約500m-1kmは離れているから、農薬のドリフトの懸念がない。

